

令和元年度 兵庫県立川西北陵高等学校 学校評価

1 教育目標

己にうち克つ厳しさと、和して同ぜぬ真の協調とを根源として、豊かな創造性を培い、もって人類・国家・社会に貢献する人間を育成する。
 校訓：克己・協調・創造
 生活訓：礼を正し、場を清め、時を守る

2 重点目標

- 校訓・生活訓等、創立時の精神を尊重するとともに、社会の情勢と地域の要望に対応した教育を推進する。
- 自立して未来に挑戦する態度の育成
 - 主体的な進路実現を支援し、自己実現の夢を育むキャリア教育の創造
 - グローバルな視野を持って地域社会に貢献する態度の育成
 - 探究活動や表現活動等、特色ある教育の推進
 - 「生きる力」を育む教育の推進
 - 個に応じたきめ細かな学習指導を行い、創造性を引き出し伸ばす教育の充実
 - 自律の心を育て、心豊かで思いやりのある生徒の育成
 - 共生の心を育み、安全・安心な学校環境の整備
 - 子供たちの学びを支える仕組みの確立
 - 魅力ある学校を創造し、地域に信頼される学校づくりの推進
 - 「教えるプロ」としての教師集団の確立

4 総合的な関係者評価

- 川西北陵高校と地域とのつながり、共存共栄、徐々に実を結んできた。今後は地域行事の企画段階から関わる等、より主体的な活動を期待する。
- ◆「2重点目標」について県の指導の重点に合致していると思われるが、より分かりやすくできないか
- 「3自己評価」について、実施できなかった項目が改善され、AとBのバランスを考えると妥当な評価であろう。

3 自己評価

評価項目	主な取組	達成状況		取組状況・改善方策				
		取組	総合					
(1) 自立して未来に挑戦する態度の育成	ア キャリア力の育成	①地域と連携した職業人インタビュー	A	B	○職業人インタビューの対象職種が増え、広範囲になり生徒の希望に合った内容になっている。社会性の育成にも効果があげられた。 ○北陵らしいキャリア教育という視点から、進路指導についても在り方を検討する。			
		②キャリアプランを考える進路指導	B					
		③大学・専門学校等の体験講習	B					
		④進路について考える講演会	B					
	イ グローバル力の育成	①世界に視野を広げる講演会	B	A	○グローバルな活躍をされている方から直接話を聴くことで、より世界に視野を広げられた。 ○西豪州高校生との交流は事前学習から事後指導に至るまで充実した交流となった。			
		②西豪州高校生との相互交流訪問	A					
		③生徒による西豪州文化の紹介	A					
	ウ 探究と表現類型の設置	①コミュニケーションを育む体験活動	B	A	○探究と表現類型は、自立性や挑戦力の育成に大きな成果を上げ、保護者や地域の理解も進んでいる。校内でのアナウンスを強化する。 ○取組を普通類型にも拡充するため、特色類型の教育課程を精査し、インタビュー以外の取組成果を波及させられないか検討する。			
		②JICAと連携した異文化理解	A					
		③日本の文化等を発信する英語発表	A					
		④地域課題の解決に取り組む体験活動	B					
		⑤学びの成果を発信する発表会	A					
(2) 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 知識・技能の習得	①習熟度別少人数授業(数・英)	A	A	○小テストの実施について、その意義を生徒に考えさせ、主体的に取り組ませる。 ○家庭学習課題、長期休業中の補習について、生徒の主体的な取組が課題。実態に応じた内容、分量となるよう、学年ごとに総合的に検討する。 ○朝や昼休みの実施を検討してはどうか。 ○検定試験の受験者は増加したが、大学入試制度変更に伴い、受験の意識付けが課題。			
		②SHR(朝礼)での小テスト(国・英)	A					
		③週末の家庭学習課題(国・数・英)	A					
		④成績不振者への面談・補充	B					
		⑤長期休業中の補習(国・社・数・理・英)	A					
		⑥検定試験の学校受験(国・英)	A					
	(4) 思考力・判断力・表現力等の育成	①授業内容の精選と発展的内容の取入れ	B	B	○話し合いまで進められなかった。主体的な深い学びにどう結びつけるかが課題。 ○各教科での連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進める。			
		②主体的・対話的で深い学び(全教科)	C					
		③言語活動や表現力を重視した総合学習	B					
		④学びに向かう力・人間性等の涵養	B					
(2) 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 克己心・協調性・創造力の育成	①校訓・生活訓に基づく人間教育	B	B	○学校行事全般について、生徒が主体として、責任感や自負心を持って取り組んでいる。 ○「ノ一部活デー」を活用し、生徒の健康管理、時間管理能力の育成を進める。 ○生徒主体のオープン・ハイスクールを実施することにより、生徒も学校に誇りを持つようになった。 ○放任せず、コミュニケーションを取る。			
		②年間指導計画を立てたHR活動	B					
		③生徒会が主導する文化発表会	A					
		④自主的・自発的な部活動	B					
		⑤芸術文化に親しむ鑑賞会	A					
		(4) 社会性の育成	①学校いじめ基本方針の改定・実施			A	A	○いじめ対応の基本方針について、年度当初に確認したことで職員意識が高まった。 ○情報モラルの講演会は実施されているが、トラブルは発生している。継続した指導を実施する。 ○危機管理マニュアルの見直しにより、毎日の生活の中での防災・防犯意識を高める。 ○事前に避難訓練の意義を考える防災学習を取り入れ、より充実した避難訓練になった。
	②情報モラル等、新たな課題に係る講演会		B					
	③認知症サポーター講習会		A					
	④地域清掃等を行う勤労体験		A					
	⑤マニュアルに基づく危機管理		B					
	⑥消防署と連携した避難訓練・安全講習		A					
	(7) 体力の育成	①種目選択別少人数授業	A	A	○体育大会において指導のもと生徒が主体となる運営。予備日の複数日日程を設定して実施した。			
		②体育大会等、校内球・つ大会開催	A					
		③スキー実習等を伴う修学旅行	A					
		(4) 健康の増進	①計画的な健康保持・増進			B	A	○研修を実施し、生徒にカウンセリングマインドを持って接することにつながった。 ○WBGTを意識することにより、危機管理意識が習慣づけられた。 ○生徒保健委員よりストーブ使用時の教室換気の呼びかけを行い、生徒の健康に対する意識が高まった。
			②キャンパス・カウンセラーとの協働			A		
			③警察と連携した薬物乱用防止、安全指導			B		
	④WBGTに基づく熱中症対策		A					
⑤生徒(保健委員会)による啓発活動	A							
(3) 子供たちの学びを支える仕組み	ア PTAの参画と協働	①国際交流等、学校行事への支援・協力	B	A	○国際交流、文化発表会等、教育活動の改善に力強い支援を得た。 ○PTAが学校の方向性を理解するとともに、主体的な情報発信によって学校を支援し、地域の理解を促進した。			
		②登校指導等、教育活動への支援・協力	B					
		③広報誌『北陵』による情報発信	A					
		④懇談会等、PTAと学校の情報共有	A					
	イ 地域への情報の発信	①生徒が主導するオープン・ハイスクール	A	A	○オープン・ハイスクールについて、生徒が司会、演劇やショー、動画等のプレゼンを行うことにより、愛校心や達成感等を育成した。 ○学校評議員会の行事とともに定期開催し、学校評価の公表を分かりやすく実施した。			
		②保護者や地域に向けた公開授業	A					
		③学校評議員会の定期開催	B					
		④分かりやすい学校評価の公表	B					
	ウ 学校の組織力・教員の資質能力の向上	①訪問指導(地歴・公民科、人権教育)	A	B	○主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、県教委、市内高校、中学校等と連携した多様な授業研究を実施した。 ○公開授業週間で職員間の授業参観、教科を超えた交流を促進し、教員の資質向上を図った。			
②外部の授業研究会への参加(国)		B						
③生徒理解を深める校内研修会		B						
④人権意識を高める校内研修会		B						
⑤生徒指導便り、学年通信等の配布		A						

5 自己評価への関係者評価

- 評価項目ごとの評価
- 北陵の魅力ある素晴らしい取組をより多くの中学生、保護者、学校関係者に知っていただくことが学校の活性化に大切であると考えている。
 - 知らない仕事を知っていく。進学先の選択肢の多様性について。大学院への進学や社会人になってからの進学を含め、方向変換も可能であることを生徒に情報提供していただきたい。
 - 特色類型発表会を参観したが、英語での発表もあり、男女とも、しっかり発表していた。完成度の高いプレゼンテーションを見ると、中学生や保護者もぜひとも入学したいとの希望を持つだろう。
 - 地域との結びつきを大事にし、地域とともに生きる学校づくり。日本一の伝統的な里山と日本一の先進的な里山を持つ川西の良さ(持っている力)を活用していく。
 - 社会人として求められるプレゼンテーションの力をこの時期に実施されている。説明されることで内容を確認でき、学んでいる内容を知ることができた。
 - 高校でも学校行事等、学校の事業のスリム化を進め、縮小の方向へ保護者に理解を求めて進めてほしい。
 - 東谷コミュニティ、大和自治会や地域の活動に計画や企画から生徒たちが取り組んでいる。さらに高校生が地域と協働できる可能性があるのではないかと。
 - 交通マナーアップキャンペーンへの参加はありがたい。高校生の登校マナーは向上してきているが、継続してより良いマナーを目指してほしい。
 - 北陵の魅力ある素晴らしい取組を、より多くの中学生、保護者、学校関係者に知っていただくことが学校の活性化に大切であると考えている。
 - ◆高校は地域の人間が入りにくい場所。地域が学校に参入することで、学校も地域も活性化する。
 - ◆地域の中学校との各教科、教科を連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進めてほしい。
 - 地域とのつながりを作るとともに、高校からもボランティアや地域のシンポジウムなどへの参加をアピールして活動してほしい。
 - 地域では、コミュニティスクールを立ち上げ学校で抱えきれない問題点を地域と共に支えていくよう取り組みを始めている。活用してほしい。
 - オープン・ハイスクールを生徒主体で行えていることが素晴らしい。学校の魅力が上手に伝わっている。
 - 自己表現力は本当に重要だと思う。自分の感情をきちんと相手に表現でき、コミュニケーションや人間関係を高められて、社会人として財産となるような力を身につけていると思う。